

# 住人十色

第192回

優しいハグが心を開き、世界を変える  
留学経験をつづったエッセイが全国表彰

西宮 莉杏さん(松山東雲高等学校3年)=天地=



◎校舎内で撮影に応じる西宮さん。「挑戦させてくれた家族に感謝。留学経験があった兄の影響も大きい」と笑顔で話しました。

「第17回 IIBC高校生英語エッセイコンテスト」が11月に開かれ、西宮莉杏さんが優良賞と日米協会会長賞を受賞しました。作品のテーマは「ハグの文化」。高校2年生の夏に約1カ月間、アメリカ・ニュージャージー州へ留学した経験をつづっています。西宮さんはホストファミリーと交流した際、交わした抱擁が深く印象に残ったそうです。「アメリカでは、ごく自然な文化。最初は戸惑つたけれど、次第に安心感やつながりを感じるようになつて。エッセイでそれを伝えたかった」と話します。

作中では、オバマ前大統領が広島を訪れたエピソードにも触れていました。平和を訴える演説を終えた大統領に、日本人男性が歩み寄ります。言葉が通じない男性を優しく抱きしめた大統領。西宮さんは「HUGはきっと、"Healing heart"、"Understanding unique"、"Giving goodwill"、を意味すると考えた。安心感、個性の理解、善心——その文化に触れることで、国境を超えて深くつながれる」と、文章に思いを込めました。

留学経験を生かしたかったという西宮さん。受賞に「家族も友人も、私も驚いた」と笑います。春からは国際分野の大学へ進む予定です。「目標は世界とつながる人材。学びが世界を開き、そこに行けばまた学びがあると思うから」と田を輝かせました。

編集  
幸記

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の  
フリーダイヤル  
☎ 0120(44)2130



△1月も何かと忙しく、あつという間に過ぎていきました。駅伝大会の取材をしていたら、何度も選手に「代わるうか?」と声をかけていただき、丁重にお断り申し上げました。カメラストラップがたすきに変わる日は来てしまふのでしょうか(╹╹)△先日朝でもうくつり腰になつたと書いたところ、いたわりの言葉をたくさんいただきました。ありがとうございました。ありがとうございました。治りかけですが、再発リスクが高いと聞いてヒヤヒヤ。腰は大事にしめしょうね。本当に(花)